

学校だより



令和3年1月29日

横浜市立二谷小学校
校長 石川 秀子



「心に余裕を」

副校長 秀徳 能尚

2月になります。冬の夜空は澄んでいて、晴れる日が多いこともあり、星々の美しさが際立つ時期となります。冬の星座で一際目を引くのがオリオン座です。オリオンのベルトの部分にあたる三つ星が探しやすいため、つい目を向けてしまいます。このオリオンの右肩の部分にあたるベテルギウスというオレンジ色の星、おおいぬ座のシリウスという青白い星、そして、こいぬ座のプロキオンという白っぽい星を線で結ぶと、大きな正三角形に近い形ができます。冬の大三角形です。南東の空に見え、大きな三角形の中を天の川が横切る形で流れているのですが、残念ながら横浜では天の川までははっきりと見ることができません。しかし、頂点にあたるこの三つの星は、他の星々よりも明るく見えるため、比較的簡単に見つけることができます。特に、おおいぬ座のシリウスは、地球から見える天体の中では、太陽、月に次いで明るく見える星です。太陽よりも遠い場所にあるため、夜空の中では小さな小さな点にしか見えませんが、本当は太陽よりも明るく、そして大きい星です。ただ、シリウスが太陽よりも大きいと言ってもなかなか想像できないので、もう少し分かりやすくなるように、ちょっと計算してみました。

まず地球の大きさですが、地球一周はおよそ 40,000km です。この時点ですでに想像しにくいのですが、これは休みなしで歩いても 500 日程度かかる距離です。大きいですね。歩くのは大変なので、新幹線で考えましょう。新幹線に乗って地球一周すると、およそ 5 日から 6 日かかります。月の場合は、小さいので 1 日半程度で一周することができます。太陽はというと、新幹線に乗っても一周するのに 1 年半以上かかってしまいます。地球と比べると、ずっと大きいことがわかります。そして、シリウスは太陽よりも大きいため、新幹線を使っても一周するのに 3 年近くかかってしまいます。シリウスは太陽の倍近くの大きさなのですが、実はもっと大きな星が冬の大三角形には含まれています。オリオン座のベテルギウスです。ベテルギウスは想像を絶する大きさで、新幹線を使って一周するのに、なんと 1,600 年以上もかかってしまいます。驚きの大きさです。

さて、このベテルギウスですが、星としての一生を終え、超新星爆発という現象を起こそうとしていることが分かっています。ベテルギウスの超新星爆発が起きると、まるで月がもう一つできたくらいに明るく輝き、その状態が数か月続くとされています。何色に輝くのかは分かりませんが、きっと幻想的な様子になるでしょう。一年ほど前に、ベテルギウスが段々と暗くなっている様子から、超新星爆発が間近に迫っているのではないかということが話題になりました。私も、今この瞬間に超新星爆発を見られたらという思いで、機会があれば夜空を見上げていたのですが、そのうちに感染症のことが話題になり始め、星どころではなく、ばたばたとした状況に追われていくことになりました。

この一年で私たちを取り巻く状況は大きく変化しました。学校の教育活動も変わりました。1月の終わりに給食週間がありましたが、昨年度までとは違って全校集まったの集会は行わず、給食委員会の児童は TV 放送を活用して食に関するクイズを全校に出していました。また、図書委員会は音声放送を使った本の読み聞かせを 1 月の中旬に行いました。低学年向け、高学年向けなど、数回に分けて放送する工夫をしていました。他の委員会も放送を活用して全校への呼びかけを行っています。二度目の緊急事態宣言が出ている状況下ですが、安全にできることを模索しながら取り組んでいます。

先を見通せない社会情勢の中、気を配りながら生活しなければならない場面がとて多くなりました。考えることが増えたり、漠然とした不安感があつたりすると、大人も子供も心に余裕がなくなりがちです。こんな時こそ、好きなことをしたり、ゆったりと過ごしたりする時間をしっかりと作り、心の余裕を取り戻すことが必要なのでしょう。ベテルギウスの超新星爆発は 10 万年後かもしれませんが、澄んだ夜空を見上げて、星々の美しさや宇宙の雄大さを感じる時間はいかがでしょうか。